

## 種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」のセル苗を利用した促成栽培法

利用対象：三重県内イチゴ生産者



### 促成栽培用種子繁殖型新品種「よつぼし」

- ・鮮紅色の果色と濃厚な食味
- ・高い早生性と連続出蓄性
- ・栄養繁殖型品種と遜色のない品質と収量性(3~5t/10a)



種子から育つため増殖効率が高く病害虫の伝染を回避  
**日本初のセル苗流通が 2016 年から開始**  
**苗生産の分業化、新しいイチゴ経営実現へ！**

(セル苗利用の新しい省力栽培法)

### ○二次育苗法

育苗労力 60%減

- ・7月上旬に 406 穴セル苗を9cm ポット等に鉢上げして育苗し9月中下旬に定植する。
- ・11 月下旬から収穫開始し、リスクが少なく早期出荷に対応可能な栽培法。

### ○本圃直接定植法

育苗作業を必要としない

- ・7月~8月に本圃にセル苗を直接定植する栽培法。406 穴は7月下旬、200 穴は8月上旬、72 穴は8月中旬までに定植する。
- ・9月中旬から2週間の 24 時間長日処理により花成誘導を行い、12 月中下旬から収穫開始。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
従来品種	株保管	株保管	親株	増殖・育苗			定植	.....	.....	.....	.....	収穫
二次育苗	収穫			播種	購入苗鉢上	2次育苗	定植	.....	.....	.....	.....	収穫
本圃直接定植	収穫			播種	.....	.....	定植	.....	花成誘導	.....	.....	収穫



406 穴セル苗の本圃直接定植

(利用の注意点)

- セル苗は「よつぼし」の許諾を受けた種苗業者から購入する。
- 両栽培法とも花房を出させる方向に株を寝かせて定植する。
- 長日処理は必ず、平均気温が 25℃以下、クラウン径が8mm 以上の株に対して行う。光源には白熱電球を用いて葉面の照度は 50 ルクス以上、日長が 24 時間となるように設置する。これらの条件が揃わない場合は、花芽分化が遅延することがあるので長日処理は行わない。
- セル苗購入後は他の栄養繁殖型品種と同様に薬剤散布を行う。特に炭そ病・うどんこ病に要注意。種子繁殖型品種は、農薬の使用回数が播種から栽培終了までを対象とし、購入した苗の農薬使用歴も合わせて総使用回数となる。
- 芽が増えやすく、芽かきは徹底する。原則1~2芽で管理し、春先の芽数は3~4芽までとする。

お問い合わせ先	野菜園芸研究課	戸谷 孝・丹羽千紘	電話 0598-42-6358
	中央農業改良普及センター	安田 幸良	電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP: <a href="http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a>		